

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

43

1 施策の概要

1-1 施策の名称	情報の共有			基本施策コード	5 1 1
1-2 担当	部	教育部	課 又は施設	生涯学習	評価票作成者 生涯学習課長 近藤雅彦
1-3 総合計画における施策の体系	節	交流と市民参加「市民と行政が尊重しあう協働のまちづくり」			
	項	参加と協働			
1-4 施策の目的	市民と行政が情報を共有し、協働して住み良い町づくりをする				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	B	
総合評価	B	

施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実施手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名		前期(平成18年度～平成22年度)			全期間(平成23年度～平成27年度)			指標の定義
			目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	目標値(単位)	実績値(単位)	達成率(%)	
		市民向けパソコン教室の参加者数(人)	200(人)	81(人)	40.5(%)	200(人)			
		市民向けパソコン教室の開催回数(人)	10(回)	6(回)	60.0(%)	10(回)			

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
	平成18年度	パソコン操作に習熟した若年層が、家庭内講師をすることによりパソコンは、もっと一般的になる。	パソコン操作の基礎講座とともに、若干の応用講座を継続して開催する。	少なくとも160人の市民が不利益から遠ざかったと思う。
	平成19年度	〃	基礎講座開催の需要は底を打ちつつあり、今後、講座回数について見極める必要がある。	基礎講座の開催回数を減らしたが、順調に講座開催が運営できた。
	平成20年度	行政によるデジタルデバインド対策は、財政難の状況にあっても必要である。	基礎講座(スイッチの入れ方から始める初歩的なもの)、中級講座(ワード・エクセル)を継続して開催する。	基礎講座の開催回数は前年度並みとしたが、中級講座を開催し、市民の要望に対応した。
	平成21年度	今後は、デジタルデバインド対策ではなく生涯学習の一部として捉えていく。	基礎講座(スイッチの入れ方から始める初歩的なもの)、中級講座(ワード・エクセル)を継続して開催する。	費用削減のため、開催講座数を減らしたが、抽選での当選確率は、前年度と対比してに大きな変動はなかった。
	平成22年度	今後は、デジタルデバインド対策ではなく生涯学習の一部として捉えていく。基礎講座(スイッチの入れ方から始める初歩的なもの)、中級講座(ワード・エクセル)を継続して開催する。生涯学習講座として初級レベルの講座を設け、高齢者のニーズに答えた。 【評価がBの理由】生涯学習課では、パソコン講座を開催し、高齢者などIT機器に触れる機会が少ない市民を対象に、基礎的な操作の取得を目標としている。しかしパソコン操作の取得だけで「情報の共有」が図れるのか不明である。 【改善方向の指示】デジタルデバインド対策としてのパソコン講座については、基礎講座に重点を置くとともに、参加と協働の視点からもPPP(官民協働)の可能性を検討すること。		
	平成23年度	基本的には、平成22年度と同様に事業の成果や課題を捉えている。課題を踏まえて、今後も実施していく。		
	平成24年度			
	平成25年度			
平成26年度				
平成27年度				

